

# ●はなせ診療所そよ風だより No54

2015年3月内科 吉澤泰介

## ◎消えた大黒柱。

目を覆いたくなるような子供たちの受難のニュースが、流れる毎日です。思えば昔は、家に地域に、大黒柱がいて、子供達を大切に育ててくれました。しかし、核家族が増えた現代は、その大黒柱が、消えてしまいました。先日、漢方仲間の五十代の京都の町で育った女医さんが、父や小学校の先生によくしばかれ、封建的な大黒柱は大嫌いと言ってられましたが、鉄拳にも正しきものと、間違っただけのものがあつて、昔はその子が、良くなってという願いをこめて、鉄拳をふるってくれる心篤き先生方や、近所のおっちゃんおばちゃんたちが、沢山おられました。

しかし平成元禄の現代は、先生方もサラリーマン化しモンスターペアレント(常識が全く通用しない無茶苦茶な自己主張をする親たち)の存在などもあり、自然と及び腰となり、巨大化した組織の中で、自分を守ることで精一杯のようです。教育界に限らず全ての分野で、同じ事が起こつてるようで、本来、子育ては、楽しいこともある反面、自分を殺すことが多々あります。この自分を殺すことが、人間にとって、一番できないことです。

資源がなく、戦争で焼け野原になつたにもかかわらず、つい最近まで世界のリーダーになりえたのは、豊富な人材がいたからこそなのに、これでは先行きが、本当に心配されます。

なぜこんな思いに至つたかといへば、先の戦争を経験なさり、すべてを失つたところから、立ち上がった、ご老人達をみて、真の大黒柱とは、自分にとって不利益に思えることも、自己犠牲の精神で、切れないで、繋いで繋いで精神で、冷静に対応し、家族や、地域を守るために尽くしてこられた方々を言い、そういう方たちのお陰で、自分たちは今ここに安定した気持ちで暮らしていられるんだと、何事も行き過ぎてしまつた感が強い現代社会を見て、思うようになったからです。こんな身勝手な時代だからこそ、そういうご老人たちを見ていると、中国の故事にある、塞翁が馬(さいおうがうま)のように、今はつらくとも、最後は人が集まってくる心豊かな余生を送られるんだと、確信できるようになりました。

## ◎下手な歌作りました

### はなせの里 2014

今年で花背にきて4年がたち 今では足声だけで 誰だか分ります。

昔の大家族の ように支えあつて 心豊かに 生きています。

現代の家族は 不安を抱え、落ち着かない気分で生きてる方が多いようだ

昔の大家族は、命をかけて ひとりひとりを 守ってくれました

物と言葉があふれた町にいと、一番大事なものを見失つてしまひそうです。

そんなに駆け足で走り続けても、行き着く先は皆同じなのに

焼くか流すか埋めるかして、太古からこの大地は、めぐつてきたのに

捨てられないものを作ろうとしている、子どもたちの明日がとても気がかり

(間奏)

いくらしんどい ことがあつても、ここへ来ると 元気になれます

山の神さんと ご先祖さんたちが、見守り続けて くれてるからでしょう

今年で花背にきて 4年がたち 今では声聞くだけで誰だか分ります。

昔の大家族の ように声掛けあつて 感謝の気持ちで 生きています。